

# モモ果実赤点病の感染時期と薬剤の防除効果

果樹試験場かき・もも研究所

## [研究のねらい]

モモ果実赤点病(図1)の伝染源となる分生子(図2)は、枝上の枯死組織部等で形成され、主に風雨で飛散し果実に伝染します。そこで、病原菌の分生子飛散時期と果実への感染時期を明らかにし、有効薬剤の検討を行いました。

## [研究の成果]

1. 分生子飛散数は6月中旬までは少なく、6月下旬から急増し、10月上旬まで多く推移しました(図3)。
2. 果実への感染はいずれの時期でも見られることから(図4)、袋かけにより発病が軽減されます。
3. ダコレート水和剤 1,000 倍、ベルコート水和剤 1,000 倍、ナリア WDG2,000 倍、ジマンダイセン水和剤 600 倍は本病に対して防除効果が認められました(データ省略)。

## [成果の活用面・留意点]

1. ダコレート水和剤 1,000 倍とベルコート水和剤 1,000 倍は 2010 年 10 月 13 日付、ナリア WDG2,000 倍は 2011 年 6 月 8 日付、ジマンダイセン水和剤 600 倍は 2012 年 6 月 27 日付で本病に対して農薬登録が適用拡大されています。
2. 本病菌は分生子飛散数が少ない時期であっても果実に感染します。果実の発病は、袋かけ時期が遅いほど多くなるので、できるだけ早めに袋かけを行い、登録薬剤による防除を袋かけ前に重点をおいて実施する必要があります。



図1 モモ果実赤点病発病果実

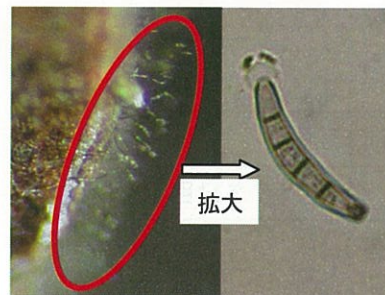


図2 枝上で形成された分生子

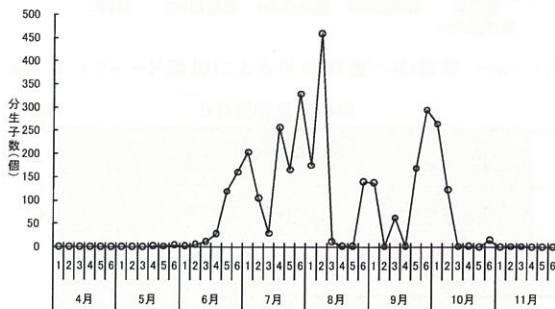


図3 枝からの分生子飛散数の推移(2009年)

注) 品種:「白鳳」

枯死組織部の真下に、両面テープを貼ったスライドガラスを3枝に設置して約5日間隔で交換し、カバーガラス内(18×18mm)の範囲の分生子数を計測した。

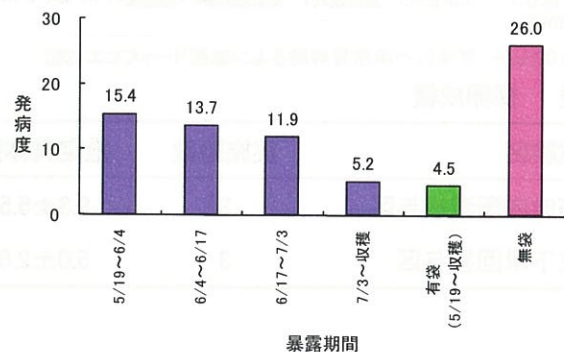


図4 暴露期間の違いがモモ果実赤点病の発病に及ぼす影響(2009年)

注) 品種:「白鳳」18年生。2009年5月19日に一斉に袋かけを行い、そこから2週間間隔で除袋時期をずらして袋かけを行った。発病度の値が大きいほど、被害が大きいことを示す。調査日:2009年7月9、13、16日(収穫時)。

(問い合わせ先 0736-73-2274)